

第2回 宇治市歴史的風致維持向上計画検討委員会 議事概要要約

歴史まちづくりワークショップの結果について

[質 疑]

ワークショップの募集方法

- ・ 市政だより、宇治市ホームページ、チラシ、新聞

参加者について

- ・ 宇治市民を中心に、市外、京都府外の方

ワークショップでの意見について

- ・ 意外と市民の意見は保守的で、飛躍的な意見が少ないと感じる。
- ・ 行政のやり方ひとつで、市民の意見が変わることも多い。
- ・ 将来性を見据えた意見を、とりあえず市民から聞くのもいい。
- ・ 市民の意見も重要だが、市外の人から意見を聞くことによって新しい見方や意見などが出てくるかもしれない。

宇治の歴史的風致の概要について

[質 疑]

歴史的風致の記載について

- ・ 宇治の歴史的風致に、「平安時代の信仰と遊楽」について記載していただきたい。
- ・ 洛中洛外図をみると、宇治は京都と同じ文化圏として捉えられている。
- ・ 宇治は王朝人が愛でた景観が現在でもみられることが特色。
- ・ 宇治は藤原氏の育てた地であり、離宮祭など藤原氏が育てたお祭りがある。
- ・ 神社関係の祭りだけでなく、寺院の文化と地域の活動についても考えてほしい。
- ・ 例えば西国めぐりの三室戸寺や、万福寺の禅宗建築は江戸時代の新様式であることについても入れていただきたい。
- ・ 中宇治は地下水が豊富であったため、中宇治のベースとして地下水の利用についても入れたほうがよい。
- ・ 生活文化の中での、宇治独特の食べ物はあるのか。
- ・ 宇治の伝統的な食べ物は、江戸時代だと川魚料理（鮎と鰻）、茶団子、茶の葉を使用したお菓子、お干菓子がある。
- ・ 食べ物の伝統について注目してほしい。
- ・ 太閤堤とお茶、遊興とあわせて、桜の花見なども調べていただけたらと思う。
- ・ 宇治の文化は点でなく流れであり「うつろいの文化」と考え、季節によって刻々と変化していく「風致」というものを、うまく捉えて向上させていくことが課題。
- ・ 「歴史的重層性」という言葉は、宇治の魅力を表現するキーワードである。
- ・ 宇治は全国的にみても大事なところであり、歴史まちづくり法の今の事業に引っ張られないよう、宇治の持つ歴史風致を正しく伝えていくように。

宇治川について

- ・資料の古写真に舟遊びをしているものが含まれているが、現在も可能か。
- ・基本的には宇治川は遊泳禁止区域だが、宇治川観光通船が営業許可をとって使用している。
- ・船の使用については、川の上流から下流まで自己管理の範疇であれば問題ない。
- ・宇治川改修の今後の計画について教えてほしい。
- ・昨年からの塔の島関係の改修を始めている。河川整備計画では、河床を切り下げ、27年を目途に行う。特に塔の島の工事は景観と構造を意識して検討を進めてる。
- ・歴史的風致維持向上計画との整合性をとり、意見交換をしながら進めていただきたい。
- ・浅瀬を設けるなど、親水的空間となるように踏み込んでいただきたい。

課題について

- ・住民参加、人材育成の項目を追加したらどうか。
- ・この計画を推進するための住民組織や住民の育成をいれていただきたい。
- ・外国人観光客についても、施策が必要ではないか。
- ・課題や方針については、次回に説明をする機会を設けたい。

第2回 宇治市歴史的風致維持向上計画検討委員会 議事概要

平成22年6月24日(木)

10:00~12:00

出席者：山崎委員長、森副委員長、山路委員、清水委員（以上、学識委員）

平松委員（代理：小谷氏）、岡本委員、山下委員（代理：丸氏）、川村委員、松村委員（代理：三木氏）、川村委員（代理：野田室長）、松浦委員、五艘委員、三枝委員（代理：中野次長）、小川委員（代理：太田次長）（以上、行政委員）

事務局（歴史まちづくり推進課：木下参事、杉本主幹、藤井係長、荒川主査、木田主任、鷲田氏）

コンサルタント（(株)文化財保存計画協会：川口、湯本）

次第：

3. 今後の委員会の予定について

[質疑]

委員長：11月末に予定している素案は、冊子のような状態で見られるのか。

事務局：印刷原稿のようなもので確認していただきたいと考えている。

4. 歴史まちづくりワークショップの結果について

事務局より資料-2について報告を行い、その後質疑。

[質疑]

学識委員：参加者はどのような方が、市民だけであったのか。

事務局：宇治市民だけではなく、市外や京都府外の方の参加もあった。

委員長：参加者はどのような方法でこのワークショップの開催を知ったのか。

事務局：市政だよりやインターネットホームページ、チラシ等を使って募集したので、宇治市民には広くわたっているはずである。市外の方はインターネットや新聞などで知って参加されたようだ。基本的には、宇治市民を中心に来ていただいた。

学識委員：まず、市民の意見を聞いていただいたことは良かった。意外と市民の意見は保守的で、行政の誘導もあると思うが、飛躍的な意見が少ないと感じた。

委員長：市民から現状が良いか悪いかという意見は出ても、新しい意見が出ることは少ないように思える。

学識委員：行政のやり方ひとつで、市民の意見が変わることも多い。将来性を見据えた意見を、とりあえず市民から聞くのもいいのではないかと。

委員長：市民の意見も重要だが、市外の人から意見を聞くことによって新しい見方や意見などが出てくるかもしれない。また、意見の中に能や狂言などがあるが、宇治独特のものか。

学識委員：宇治を舞台にしたものはあるが、演じ方について宇治独特といったものはない。

5．宇治の歴史的風致の概要について

[質 疑]

委員長：宇治の歴史的風致の全体像を3つに定義しているが、

文章に「平安時代の信仰と遊楽」が書かれていないので追記していただきたい。

また、宇治の歴史的風致は、宇治の住民が作ってきた郷土文化と、平等院や対岸の離宮・宇治上神社などを含んだ浄土風景、宇治のまちの区割りなど為政者によるものなどがある。私は、宇治の歴史は全国的に見て非常に重要なものと、宇治の住民が作ってきたものの両方がある成り立っていると思うし、特に全国的に宇治が注目されるのは、前者があつてのことだと思う。

京都の嵯峨嵐山の場合、後嵯峨上皇が離宮を作って、鎌倉時代に碁盤目状の都市計画が行われ、源氏物語の舞台ともなっていて、景観やイメージを守ることで京都の一大観光地となっている。同様に、京都の文化の中で宇治の占めていた位置をきちんと大切にすべきで、宇治の住民が作ってきた郷土文化とあわせて、その両方を大事にし、宇治の歴史的風致を未来に伝えていくのが重要であると思う。

学識委員：洛中洛外図をみると、宇治は必ず京都の端に描かれている。これは京都と同じ文化圏として捉えられていることを伝えている。山崎先生の意見を、まさに図像的に表現するのであれば、使ってはどうか。

副委員長：「歴史的重層性」という言葉は、宇治の魅力を表現する言葉の一つと考える。全体像の中で、単に時代だけの重層性でもなく、京都の都の文化との関係や、ローカルなもの、さらにグローバルな発信まで考えていけるといい。ぜひ「歴史的重層性」という言葉を、全体像にキーワードとして盛り込んでいただきたい。

学識委員：京都の王朝文化が別業の地として作り上げた場所が3箇所ある。嵯峨、宇治、もう一つは鳥羽である。巨椋池のほりにあった鳥羽はほとんど残っていないが、嵯峨と宇治は自然景観がそのまま残っている。基本的には、嵯峨も宇治も王朝人が愛でた景観が現在でもみられることが特色。

宇治のもう一つの特色は奈良と京都、つまり平城京と平安京の中間部にあり、往来の途上にあった。宇治に文化的影響を与えたのは天皇ではなく藤原氏であり、文化的にも奈良に近い。宇治は藤原氏の育てた地であり、離宮祭など藤原氏が育てたお祭りがある。奈良のおん祭りと同じような形態のお祭りが中世末まであったが、宇治では王朝文化が一度途絶えてしまった。そういう歴史的景観の変遷が基本的にあると思う。

もうひとつ「景観」や「風致」に関する重要な点として、京都文化では「うつろい」という言葉を大切にしている。季節が変わっていく、うつろっていくに従って、刻々と風致、情景が変わっていくのを愛でる。つまり点ではなく流れである。宇治の場合も「うつろいの文化」として考えたほうがいい。季節によって刻々と変化していく「風致」というものを、うまく捉えて向上させていくことが課題ではないか。

委員長：洛中洛外図でも、四季が表現されてる。

学識委員：町田家本に季節はないが、それ以後はある。京都の文化は、基本的に四季でとらえる。

行政委員：資料3の歴史の記述は、平安時代から始まっているが、それ以前の重要古墳がかなりある。歴史はどこから記述するのか、また地域的な範囲は木幡・黄檗まで広げるのか。時代と地理的の範囲について、事務局としてどう考えているのか。

事務局：時代について、宇治は平安時代に大きく都市的な発展を遂げており、非常に特徴的な地域として続いている。それ以前の飛鳥時代には宇治橋がつくられ、その袂に発達した地域という経過もある。また、宇治には大きな古墳もあり古墳時代にも着目された地域であったことが分かっている。それらは、どのように継承されているかということ、古墳時代中ごろに菟道稚郎子が宇治に宮を構えたことから、この地が宇治と呼ばれたといった地名起源説話、また産土神として宇治神社・宇治上神社の祭神として祀られ、現在も離宮祭として行われていることなどがある。古墳時代の歴史的な事実がそのまま移行しているわけではないが、その記憶が宇治の中で息づいており、現在に継承されているといえる。

事務局：地域的な範囲については、国交省より全市を対象に調べるように言われている。本日の資料は出来る限り全市的に作成したが、足りないところもあるので、ご指摘も踏まえて補足していきたい。

委員長：最初、重点地区は中宇治を指定するが、将来広げていくことも考えて、全市的に一番古い歴史から押さえ、後々多様な展開ができるように考えていただきたい。繰り返すが、宇治は全国的にみても大事なところであり、歴史まちづくり法の今の事業に引っ張られないよう、宇治の持つ歴史風致を正しく50年後、100年後、300年後に伝えていくための基本的な姿勢がここに出せるよう考えていただきたい。

行政委員：本日の資料を見ると神社関係のお祭りや資料はたくさん見られるが、お寺もあるのでその活動についても取り上げてもらいたい。お寺の文化と地域の活動についても教えてほしい。

学識委員：資料の古写真に舟遊びをしているものが含まれているが、現在もできるのか。遊覧船ではなくて個人的な遊び。また、蛸狩りの写真の場所はわかるのか。現在も蛸狩りのできる場所はあると聞いている。

事務局：蛸狩りの古写真はおそらく昭和前期のものである。昭和に入って蛸の数が減少していたころ、蛸を復活させるため放流を行ったことがあり、その様子を撮った写真と考えられ、現在の塔の島辺りと思われる。

船については、川船が何艘もありそれに乗ることはできるが、手漕ぎボートは現在見ないし、その他カヌーなどについての詳細は不明である。

副委員長：基本的に宇治川は遊泳禁止区域だと思う。宇治川観光通船さんが営業許可をとって使用している例外はある。天ヶ瀬ダムができてから利用範囲が縮小し、私は知っている限りでは宇治川は管理された空間となっている。

行政委員：船の使用については、川の上流から下流まで自己管理の範疇であれば問題ない。またダム放流の関係で遊泳場にはできないが、個人的に川に入るのは自由の範疇である。宇治川通船さんも船着場を許可されているのであり、営業許可とは別だと思う。

委員長：宇治川一帯では、歴史的風致維持の景観計画や川の改修など特別に河川管理をしていただいているが、市との関係や今後の計画について教えてほしい。

行政委員：昨年から塔の島関係の改修を始めている。河川整備計画では、河床を切り下げ、宇治川の安全性を高める工事を今後 27 年までを目途に行う。特に塔の島は、塔の川にも水を流す関係もあり全面的に護岸改修を行う予定。この工事は当方でも景観と構造を意識して検討を進めていて、今後案が決まったら市民にも意見をいただくことを考えている。宇治市、京都府にも関わっていただきながら検討している段階である。

委員長：歴史的風致維持向上計画との整合性をとり、この委員会や歴史まちづくり推進課とも意見交換をしながら進めていただきたい。

副委員長：先ほどの宇治川の話は、国交省の立場の回答と市民の認識の間にずれが生じている例と認識できる。お互いのずれをどうやって埋めていくか、例えば市民が蛍を愛でるためには、どのように制度的に支援できるか、空間的にも作っていくのが重要となる。河川整備計画には防災上の安全性という話もあるが、信仰と遊楽の空間という観点も入れることで、親水的空間となるように踏み込んでいただきたい。

委員長：洪水が発生しないよう断面積を広げるための工事の中では難しいかもしれませんが、浅瀬のところ、水流が緩やかなところを設けることができれば、そこで蛍を放流する可能性もあるので、そういった工夫も考えていただきたい。

学識委員：宇治の川霧の年間の発生率を教えてください。

事務局：川霧のデータはありません。問合せは多いが、冬の寒い日の早朝に見ることができますとお答えしています。

委員長：先ほど質問のあった寺院については、例えば西国めぐりの三室戸寺はにぎやかな話題ですし、万福寺の禅宗建築は江戸時代の新様式として取り上げられるものであり、これらについても入れていただきたい。

学識委員：中宇治は地下水が豊富で、積極的に利用してきた場所である。扇状地の地形と関係して、七名水以外にも井戸が使われ、池庭が作られ、お茶の生育にも利点があったとすれば、中宇治のベースとして地下水の利用についても入るといいと考える。

学識委員：生活文化の中での、宇治独特の食べ物はあるのか。例えば、万福寺の普茶料理。最近、お茶は飲むだけでなく、スイーツや化粧品などお茶の利用も広がっている。宇治の食べ物として特色的なもの、将来全国的に売り出していくものがあるのか。

事務局：宇治の伝統的な食べ物は、江戸時代だと川魚料理が有名である。なかでも、鮎と鰻が主に使われている。近代以降、茶団子など食べ物にお茶の葉を使うようになった。明治時代に評判だったお干菓子が、最近復活したとも聞いている。昔から各店で色々と開発をしていたようで、今後はその掘り起しも重要と考えている。

副委員長：[資料 1 追加]の目次案について、4 章あたりに住民参加、人材育成の項目を追加したらどうか。抹茶は甘いと思っていた学生がいたり、平等院に行ったことのない、茶香服を知らないというのはまずいと思う。宇治市では宇治学という郷土教育を進めているが、全国的にみても宇治市は特別な場所ということを学校教育の現場に入れ込むことが不可欠だと思われる。

もうひとつ、お祭りなどの神社の行事は町内の行事でもある。氏子の集まりは、日常的に見れば、町内会、学校の登校班、連合自治会など、地域に根差した地縁組織でもあり、（お祭りによって）実体化してアイデンティティを作っていると思う。これは、地域の

自治力であるし、宇治市の今後のまちづくりにも関わると思うが、宗教行事であるがゆえに支援が行き届いていないと思う。お祭りが継続できないとすれば、自治力も壊れてしまうのでは。この計画を推進するための住民組織や住民の育成を入れていただきたい。先ほど配らせてもらった冊子の中で、宇治市の地域活性化を市民に問いかけたところ、すべての世代で観光の振興が重要だと思っているというのがわかった。特に50代以降は、歴史文化のまちづくりが重要だといっている。確実に市民ニーズはあるし、市も進めていかななくてはならない。ターゲットを考えながら人材育成の項目を入れていただきたいと思う。

行政委員：[追加資料3]にある課題については、今後どのように計画に盛り込むのかを聞きたい。もうひとつ、宇治では観光客、特に外国人の観光客に来てもらうには、どのような施策を考えていくのかも検討いただけたらと思う。

事務局：本日の委員会の議題は、宇治の歴史的風致についてご意見をいただくことである。課題や方針については、次回もう少し具体的に説明する機会を設けたいと考えている。

行政委員：太閤堤とお茶、遊興ということなら、桜の花見なども調べていただけたらと思う。

委員長：今日のご意見として、

- ・時代として古代の古墳から平安時代の王朝文化のことも入れてほしい。
- ・景観としての四季のうつろいにも注目してほしい。
- ・神社だけでなく寺院の活動・存在についても、目を向けたらどうか。
- ・地下水の利用など、水をテーマとして考えていただきたい。
- ・食べ物の伝統について注目してほしい。
- ・市民参加と人材育成という視点、仕組みについても考えたらどうか。

などがあつた。個人的には、太閤とお茶について本当に関係があつたのか、実証的な歴史を調べてほしい。宇治は十分意義深い歴史があるので、未来に向けて宇治の歴史をきちんと継承していけるようにしていきたい。

6．閉会

事務局：ありがとうございました。本日の重要なご指導、ご意見は事務局で取りまとめさせていただきます。次回は8月末を予定している。後日、日程調整させていただきます。

以 上